

令和4年 網走市議会
総務経済委員会 会議録
令和4年11月28日（月曜日）

○日時 令和4年11月28日 午前10時00分開会

○場所 議場

○議件

1. 令和4年度除雪計画について

○出席委員（7名）

委員長	小田部 照
副委員長	山田 庫司郎
委員	栗田 政男
	永本 浩子
	平賀 貴幸
	古田 純也
	村椿 敏章

○欠席委員（1名） 立崎 聡一

○議長 井戸 達也

○委員外議員（0名）

○傍聴議員（0名）

○説明者

副市長	後藤 利博
建設港湾部長	立花 学
都市管理課長	澁谷 一志

○事務局職員

事務局長	林 幸一
次長	石井 公晶
総務議事係	山口 諒

午前10時00分開会

○小田部照委員長 おはようございます。

ただいまから、総務経済委員会を開会いたします。

本日の委員会ですが、立崎委員のほうより欠席の届出が出ておりますので報告いたします。

今回の委員会では、所管事務調査について協議いたします。

それでは、議件1 令和4年度除雪計画について説

明を求めます。

○澁谷一志都市管理課長 資料1号を御覧願います。令和4年度除雪計画について御説明いたします。

1ページ、1のはじめにありますが、本年度の除雪計画策定に当たりましては、5ページの除雪基準及び6ページの除雪の出動基準を基に過去の業務実績を勘案の上、検討を行い郊外地域の状況等につきましては、道路河川愛護会委員の皆様から意見をお聞きするなど協議を行いまして、御覧の計画を策定した次第でございます。

次に2の除雪方針であります。冬季間の交通確保、市民生活の安定維持などを目的に通勤、通学路をはじめ主要幹線道路及び歩道の早期除雪に今年度も努めてまいりたいと考えております。

次に3の除雪期間でございますが、例年同様、12月1日から3月31日まで行います。

次に4の除雪路線、5の除排雪体制につきましては記載のとおり、路線・延長の除雪を実施し、昨年同様の除排雪体制を確保いたしました。

次に6の除排雪機械の体制でございますが、昨年より2台少ない84台を配備いたしました。

（1）委託事業者へ貸し出す官貸車両につきましては、昨年同様、22台を配備し、そのうち新規のグレーダ1台を更新しました。

（2）事業者からの借上車両につきましては、昨年より大型ロータリーが1台少ない51台を配備いたしました。減った理由といたしましては、車両が古く稼働実績が少ないためでございます。

（3）郊外委託車両につきましては、昨年よりショベルが1台少ない11台を配備しました。減った理由といたしましては、車両の故障で更新ができないためでございます。

次に2ページ、7の除排雪作業でございますが、市街地の幹線道路を重点路線に位置づけ、除排雪を行うとともに除雪状況等を勘案し、排雪を実施いたします。

（1）除雪作業につきましては、「かき分け除雪」により通行の確保に努めます。

（2）排雪作業につきましては、幹線道路、生活道路において、降雪により道幅の確保が困難になる

ことが予想される場合など、状況に応じて運搬排雪を実施いたします。

次に8の幅員確保・路面整正及び滑り止め対策がありますが、除雪後の滑りやすい路面や、わだち等による交通事故を防止するため、路面整正を行うとともに、滑り止め対策として融雪剤・微砂利の散布を行うほか、12月1日よりロードヒーティングを稼働いたします。

次に9の歩道の除雪であります。記載のとおり、歩道延長の除雪を実施いたします。

次に10の除雪指定外路線についてであります、農作業等の準備を見据えた雪割り作業についてでありまして、例年同様の対応を計画しております。

次に11市民への周知啓発であります、例年同様、広報あばしりやチラシの市内全戸配布など市民への啓発に努めてまいります。

次に12の間口の除雪についてであります、除雪は道路交通を確保するために道路の雪を左右にかき分ける「かき分け除雪」を行っておりますので、どうしても各家庭の間口に雪が残ってしまいます。間口に残った雪は各家庭で処理するように周知啓発を図り、理解と協力を得るように努めてまいります。

次に3ページ、13の網走市公式LINEを活用した市民サービスの向上についてであります、10月7日よりテスト運用を始めました。

今までの問合せは電話のみの対応などで、市公式LINEを活用し、交通障害などの通報に対しても、現場の写真、位置情報がすぐにわかることから冬場においても、迅速な対応を図ってまいります。

周知については、広報あばしり11月号に掲載、網走広報折り込みチラシによる配布のほか、15ページのチラシの中でも掲載したところでございます。

次に14交通その他であります、例年同様、除排雪作業の支障となる路上駐車車両への対策を講じます。

次にページが飛びますが、14ページのチラシ、除雪についての5つのお願い、4の除雪作業に御理解をであります、早朝除雪の時間については、従来、朝8時までと表記しておりましたが、湿った重たい雪や雪の降り始めが遅いなど、降雪状況により、朝8時までには除雪が完了できない場合があるため、「できる限り通勤、通学の時間までに終了するように努めています」に変更いたしました。

次に15ページ、雪捨て場の利用についてであります。雪捨て場の利用期間は、例年同様、12月1日から

3月31日までとし、場内を整地する除雪車両オペレーターの人材確保が厳しいことから、従来の開設時間を短縮し、市民は朝6時から夜7時まで、除排雪業者等は朝6時から夜6時までとしており、利用者の皆様には御理解、御協力を頂きたいと考えております。

続いて、ページが戻りますが、7ページには令和4年度冬季除雪緊急連絡体制を、8ページから13ページまでには、除雪路線図を添付しておりますので後ほど御確認いただければと思います。

説明は以上であります、本年度におきましても、市民の皆様が快適に冬を過ごせるよう除雪業務の推進に努めてまいります。

説明は以上です。

○小田部照委員長 ただいまの説明で、質疑等ございませんでしょうか。

○村椿敏章委員 今年の排雪、2班体制ということでもかなり時間がかかったわけですが、あと4年ぶりですかね、少雪のため排雪をしていなかったことから、久しぶりの排雪作業で大変だったという、体制を立て直すのも大変だったというところは理解しましたが、今年の排雪ですか、雪の量にもよるかもしれないですが、やはり、その1年に1回は排雪をするような、そういう方針というのは、要は体制を整えていくとか、そういうことも含めて、それからオペレーターの慣れっていうんですかね、年に1回ぐらいは排雪しないとその状況がわからないとか、そういうこともあると思うのでそういうふうには考えてはいないのか、その辺をどういうふうに考えているのか伺います。

○澁谷一志都市管理課長 今の御質問に対してですが、排雪は基本的に道路の通行が確保できない、もしくは、できなくなることが予想された場合に排雪を実施したいと今シーズンも考えております。

昨年は、委員おっしゃるとおり4年ぶりの大雪と排雪もあり、やはり久しぶりの排雪ということもあってなかなか要領とかも、うまくいかなくて時間はかかったと。あと、雪質も硬かったっていうのもありまして、時間がかかったのは承知しております。

今、委員おっしゃったとおり毎年ですが、排雪を実施したらっていう御意見もございますが、そこら辺はですね、降雪状況も踏まえて考えていきたいと思っております。

また、オペレーターの人材確保っていうのは、やはり現在も厳しい状況でございますので、そこら辺

につきましても事業者と協力というか、いい方法がないかという検討をしながら考えていきたいと考えております。

○村椿敏章委員 要は持続可能っていうんですかね、そういうことの上でも、ぜひ排雪については、1年に一遍はできるようなそういう体制というか、検討してもらいたいと思いますし、また事業者に向けてオペレーターの確保っていうところ、努力してもらうように求めているということですが、市としてもね、どうやっていけばいいのかっていうことも、事業者と一緒に話合っていく必要もあると思うんです。その部分について、市が何か助けっていうか、一緒になって続けていけるような、そういうことは、この間、検討はされたりしているんですか。

○澁谷一志都市管理課長 当然、人材確保っていうのは、最近から始まったわけではございません。ずっと前から懸念はされております。

そして今年ですね、請負業者にオペレーターのアンケート、年齢構成のアンケートをいたしました。その結果ですね、組合の確認している10社でオペレーター52人について、昨年度なんですけど、昨年、現在の状況を確認したところ、一応52人中、60歳以上のオペレーターっていうのは全体の4割を占めておりまして、40歳未満のオペレーターっていうのは2人っていう現状でした。

やはり、この状況じゃなかなか厳しいのかなと。あと技術の継承、これは車を運転するのと違いまして、大型車、特に除雪車に乗るのに当然、数年時間もかかりますし、あと慣れたところで、地域によって、路線によってやっぱり雪のたまるところとかっていう、そういういろいろな特徴もございます。やはり、長い期間経験しないと習得っていうのは難しいのかなと思っております。20代、30代っていうのが1人1人で2人っていう現状ですので、そこら辺も請負する業者とですね、何かいい方策はないかというのは引き続き検討していきたいと考えております。

○村椿敏章委員 かなり深刻な状況なんだと思います。さっきも言っていたように、年数もかかりますし、早期に対策してもらうように求めたいと思います。

あと、12番の間口の除雪なんですけど、若干、幅の広い市道で歩道のないようなところで本当に枝道のところなんですけれども、そこの方からちょっと聞

いたのが、朝来て仕切りのところ、行き止まりのところなんですけど、同じところを何回も往復して終わらせて、あまり幅広く開けてくれないというところがあったんです。その分、自分で除雪しなきゃならない部分が多くて困るっていうような、そんなことも聞いたんですけども、多くはねないようにしているとかそういうことっていうのはあるんですかね。

○澁谷一志都市管理課長 除雪につきましては、あくまでも道路の幅を確保するために、かき分け除雪を行っております。どうしてもですね、当然、自宅前、車庫前には残ってしまいます。できるだけオペレーターもですね、雪を置かないようにっていうふうには気をつけておりますが、やはりどうしても残ってしまうのは、申し訳ありませんが、そこら辺は、御理解を願いたいと思っております。

○村椿敏章委員 ちょっと違うのです。そうじゃなくて、車道幅は6メートルぐらいあるんだけれども、同じところを何回も行ったら6メートルの幅ぐらいあるところをそれよりも狭く開けているというような、そういう苦情だったので車道幅は、はねるといってそういう基準というものはあるのかなと思ひまして。

○澁谷一志都市管理課長 あくまでも道路の通行の幅を確保するためでございますので、幅を本当にぎりぎりっていうのは、ちょっと難しいのかなと思ってございます。

○村椿敏章委員 それぞれだと思いますが、市民の声も聞きながら柔軟に対応してもらえたなと思います。そうでないと、やっぱり幅の広いところは、多くの面積を市民が自ら除雪しなければいけないという部分も出てくる可能性もあるので、車道幅が広ければ広い部分は、やっぱり除雪していくべきだと思います。

私からは以上です。

○小田部照委員長 ほかの委員いかがでしょうか。

○栗田政男委員 いよいよそんな季節になったのかなっていう気がする。

いろいろと資料で見るとあれなんですけど、排雪の問題、今、出ていましたけれども、市の保有している排雪に使えるロータリー車っていうのは2台あったという理解でいいのかな。

○澁谷一志都市管理課長 市が保有しているロータリーはですね、大型、小型合わせて2台ございます。

○栗田政男委員 小型は排雪に使えないので、小型の歩道やるタイプじゃなくて、大型のダンプトラックに排雪を積めるタイプのやつは何台あるの。

○澁谷一志都市管理課長 すいません。大型ロータリーは1台でございます。

○栗田政男委員 ここがやっぱり、増車なりの検討が必要なのかなと思います。というのは、ロータリー車っていうのはすごく単価が高いんですね。それを民間の人たちが買って、時間単価は市の方が適正に出しているはずなんです、それでもちょっと、例えば新しい機械を買って除雪だけで対応するときに経営が成り立つかといったら、全然成り立たない話なんです。それは予算上、いろいろ我々もロータリー車が幾らするかかわっていますので、そういうふうにと考えると2台体制にやっぱり早いうちにするべきではないかと。これは、民間がそれを持つというのは難しいですから、これはやっぱり役所がそういうものはしっかりと用意をして準備をしてあげるといことと、民間のほうに運営は委託しているのですよね、当市は。そういうことなんです、やっぱり機械はね、やっぱり役所で高額なものは用意して、また新しい最新のものは最良ですから、そういうもので対応するという方向性は失わないでほしいと思うんですが、どうでしょうか。全部民間に委託してやってもらうという方法もあるんです、方法としては。でもそうしてしまうとなかなか、今言われた人材不足とか、その会社の都合で冬しか使わないものに投資するというのは、なかなかできないという状況が生まれてくるので、市としてせめて機械関係はしっかりと担保するというような考え方でお持ちなんでしょうか。

○澁谷一志都市管理課長 今、委員おっしゃられたとおり、オペレーターの人材確保っていうのもありますけれども、そのほかにも機械の保有、特にこういう大型ロータリーっていうのはもう、冬場しか当然、使えないので委託業者の負担も大きいと。当然、維持管理も大変だというふうには認識しておりますので、そこら辺は委託業者とですね、協議をしながら、できるだけ市のほうで整備するような、配置するような形で考えていきたいと考えております。

○栗田政男委員 ぜひともそういう方向性だけはしっかり持っていていただかないと、将来にわたって大変なことなのかなっていう気がします。

そういう中で雪が降らなきゃ、最近ずっと少な

ったんでね、排雪の必要性っていうか、当市の場合それほどの交通量もないので、夜間に無理して、夜間はいろいろな単価的なものも変わってきますので、確かに交通量が少なくてやりやすいんですが、どうしても夜間にやらなくちゃいけない必要性っていうのは、当市においてはちょっとないのかなと。札幌市なんかは、本年度の除雪計画で12月から出さって、去年、大雪でえらい苦労したんですよ。しばらく、やっぱり札幌も少なかったんで、たかをくくって言ったら変な話なんです、私も大雪のときに札幌にいまして大変な目に遭って、これじゃ大変だなと。3車線が1車線になったという状況を見て、こんなこともあるんだということなので、やっぱりその辺はしっかりとさせていただかないと駄目だと。そこで感じたのは、業者に丸投げという言い方が悪いのか良いのか別にしても、任せっきりで市の職員の皆さんがしっかりと管理されていない。特に夜間の排雪に関しては、かなりいい加減な作業をられたという。本当にそれを見てきてがっかりしたんですね。ですから、やっぱりそういう管理はしっかり原課のほうで24時間、少なくとも毎日降っているわけじゃないですから、せめて降ったときだけはしっかり観察、監督、それをしっかりやってほしいんですが、そういう体制っていうのはどうなっています、当市の場合は。

○澁谷一志都市管理課長 30年から民間委託しております、業者の主導で行っておりますが、除雪につきましても、市のほうでパトロールも行っております、道路状況も把握しております。そこら辺は委託業者と緊密な連携をして、できるだけ市民の方に御迷惑のないような形で取り組んでいきたいと考えております。

○栗田政男委員 ぜひともね、その辺、僕はちょっと甘いかなという気がしています。しっかりその現場を見て、そうしないと対応できませんから。いろいろな苦情もそれぞれ見て来れば、それなりの対応を判断できるので、やはりその辺の体制をね、少なくとも、市役所側がしっかりと持たないと。業者に任せているからそれでいいということには絶対ならないので、本当に貴重な税金、多額の費用がかかります。それを投下しなくちゃいけないので、効率的なことをしてもらわないと困るので仕事をしっかりとってもらうというのが原則になりますので、ぜひともその辺を注視しながら進めていっていただきたいと思います。

それと気になるのは、先ほどもお話ししましたが機械が、例えば新品の機械だと2割ぐらい上がっています。2割ということは5,000万の機械だと1,000万上がっているんですよ。知ってのとおり燃料も高騰しています。当然、100円超えですから、1日走ると何十万という燃料代がかかるんですね。だから、そういうものも非常にコストが高くなっているのです、この単価の見直しなんていうのは今年行われたんでしょうか。

○澁谷一志都市管理課長 単価の見直しについてですが、契約の当時は、まだ上がる前の単価で契約しております。ずっと単価も上昇しておりますので、その辺につきましては、最終的には単価の見直しを行いまして、契約も変更した形で対応していきたいと考えております。

○栗田政男委員 ぜひともその辺は業者さん、民間の方ですから損のないようにしっかりと手当てをしていただきたいのと、十分にその辺は密な連絡、情報交換しながら、現実にもう皆さん知ってのとおり、機械は今半導体の関係で重機に限らずトラックも1年待ち、2年待ちというのはざらにあります。そういう状況ですから、すぐにオーダーしても、機械は来ないということですから、今ある機械をしっかりと活用するしか方法はないということなので。

それと、大分最近、雪が少なかったですよ。それで、業者さんと契約しているんだけど動かないときが多くて、これはとってもやってられないなという状況が生まれたのも、何年か続いたような気がします。その中で、市のほうでもいろいろ対策を考えて、ある程度の最低保障なりの手当てをしてきているんですが、これも本当に大切なことなので動かないからゼロということにはならないと思いますので、用意してスタッフも準備して、いろいろと企業側のほうでは努力していただいていますので、それに対するこれもやっぱり、いろいろ話合いでその都度やっぱり対応していただくしか方法はないと思うんですが、その辺についてはどうでしょうか。

○澁谷一志都市管理課長 何年か前にですが、少雪のときがございました。当然、動かないからといってもですね、業者のほうは当然、整備をしていつでも出動する体制を取っております。そのとき、当市でも最低保障っていうのを見直しまして、仮に少ない場合でも、人件費、機械経費の8割は最低保障として確保するという設定をいたしましたので、そこ

ら辺は、仮に少ない場合もですね、それを適用しながら対応していきたいと考えております。

○栗田政男委員 その対応をしていただいています。ケース・バイ・ケースでいろいろな場合が出てくると思います。ぜひとも、それがあつての除雪体制なので、除雪されないと我々、本当にライフラインがストップしてしまうので大変なことになります。救急患者の搬送だとかいろいろな場面でどんどん今出ていますので、昔のようにゆっくりむっくりという話にならないので、ぜひともその体制は構築していただけるように御努力をいただければというふうに思います。

それで、間口の話が出ていました。私も除雪しているのでよくわかりますけれども、そんな間口一個は無理ですから。無理ですし、道路幅を確保するといってもそれだけで、そうするとその雪はどこに行くのかとなるので、車が通れるだけ幸せということで、それを御理解いただくしか方法はないのかなと思います。場合によっては、場所によっては片側に寄っちゃうっていうのはしょうがないですね。どちらか片側に寄せなくちゃいけないので、うちばっかりに寄ってなんていう苦情も我々よく頂きますが、御理解いただきながらもうやるしかないというのが、これ、みんなで助け合うしかないのかなという気がします。大変でしょうけれども、今年1年、また御努力いただければというふうに思います。

ありがとうございます。

○小田部照委員長 ほかの委員いかがですか。

○永本浩子委員 それでは、ちょっとお聞きしたかったのが、除排雪機械の体制ということで、今回グレーダを1台、新規でそろえたということだったんですけれども、借上車両のほうで51台の中で1台が老朽化、これに関してはそれほど稼働していなかったということだったんですけれども、郊外委託車両のほうでも1台故障でということだったんですが、この1台の故障とか老朽化の1台っていうのは影響っていうのは、どうなんでしょうか。

○澁谷一志都市管理課長 郊外除雪の1台減った影響でございますが、今請け負っておりますほかの業者がですね、対応する形で契約を結んでおりますので、そこら辺の影響はないと考えております。

○永本浩子委員 はい、わかりました。

安心いたしました。

そして、今度からこのQRコードを使って、市の公式LINEで交通障害などの通報に対して迅速に

対応するということになっていて、どれぐらいこれを活用した情報が入ってくるのか。これから始めてということなんですけれども、この情報が入ってくるのは、市のほうに入ってくるんだと思うんですけれども、それとこの委託業者とのこの連携体制とかってというのはどのようになっているのでしょうか。

○澁谷一志都市管理課長 この通報ですが、瞬時にですね、担当のほうにデータっていうか写真とかが送られてきますので、そこら辺は、すぐにそれを現場のほうに伝えて状況を確認したいと考えております。

○永本浩子委員 多分、すごくたくさんいろいろな情報が入ってくるんじゃないかなって思うんですね。今年の1、2月とかもすごく雪が多くて、私もたくさんいろいろなことを言われてお伝えしても、やっぱり現場は、そこにすぐ行きたくても、なかなか行けないっていう状況が多分、結構あったかと思うんですよね。この辺のところをうまく活用してスムーズにいくようになれば、本当にいいところなんですけれども、今年度初めてやってみてどこまでうまくいっていったところなんですけれども、そういった意味で情報だけはたくさん来ても、なかなかそんなすぐにそこに行けるわけじゃないっていうところがたくさんあるかと思うんですけれども、その辺のところちょっと心配はしているんですけれども、どのようにお考えでしょうか。

○澁谷一志都市管理課長 10月7日ぐらいからテスト運用を始めておりまして、今現在そんなオープンの情報っていうのは来ていないんですけれども、冬になりますと、当然いろいろな情報が来るのが予想されます。一応、チラシのほうにも記載しているんですが、住宅の間口に関する雪の通報は御遠慮願いますということで周知はしております。ただ、道路が昨年みたいな、道路状況がザクザクだったというようなことがございましたら、やはり、ある程度の通報っていうのがあるのかなというような形で予想はしておりますが、できるだけですね、情報をもらいましたらすぐ写真とかで確認もできますのでそこら辺は、できるだけ市民生活に支障のないようには努めていきたいと考えております。

○永本浩子委員 どれぐらいの情報があるかこれからの話なので何とも言えないところもあるかと思いますが、基本的にこれは情報を市はもらうだけで情報提供者には、この返信とかはないということとでよかったんですか。

○澁谷一志都市管理課長 今のところ、情報を頂きまして、予定なんですけど、月に1回こういう情報に対してこういうふうに対応いたしましたっていうような形は考えております。

○永本浩子委員 じゃあ、月に1回まとめてという形で。

○澁谷一志都市管理課長 はい。

○永本浩子委員 わかりました。

やってみてまたいろいろと良い悪いっていうのがあると思いますので、また積み上げながら、せっかくの公式LINEなのでいい形で活用していただければと思います。

先ほど村椿委員の質問で、除雪人材のアンケート、年齢構成のアンケートを取られたということで60歳以上が4割ということなんですけれども、約6割は40代、50代ということなんでしょうか。それとも、40歳未満が2人いて先ほど20代30代が1人ずつとかっておっしゃっていましたけれども。

○澁谷一志都市管理課長 60歳以上の方が全体の4割で20代、30代が各1名ずつで2人、40代、50代で29人っていうふうになっていますので、一番多いのが40代、50代というような割合にはなっております。

○永本浩子委員 そうすると、今度は60歳以上が4割ってありますけれども、70代、80代とかっていう方もいらっしゃるんですか。

○澁谷一志都市管理課長 70代以上が6人おります。

○永本浩子委員 すいません、いろいろ聞いて。

今40代、50代、あと60代も昔の60代に比べると結構若いと思っているんですけれども、この技術の継承にやっぱり、確かに数年かかりますし、私も委託業者の方といろいろ話したときにも、前は2人体制で乗っていたのが今1人で乗るようになっていたりとか、その現場で一緒にやりながら教えるっていうのがとても難しくなっているんだってお話を聞いたりのしているんですけれども、ただやっぱりこうやってアンケートを取って、四、五十代も結構いていただけるこのときに、何かやっぱり手を打っていかないと本当に技術の継承っていうのができなくなってくると思うんですね。もう一つは、やっぱりこの若い人20代、30代が1人ずつっていう、この現状をどう変えていった20代、30代の人を増やしていくかっていうところの二つ課題はあるかと思うんですけれども、その辺のところは、この事業者の方とはど

んな話し合いをされているのでしょうか。

○澁谷一志都市管理課長 冬期間の雇用ではなくて、1年を通しての夏場の補修とかも含めてそういう1年を通しての雇用を検討したり、あと賃金面でですね。やはり、なかなか冬場は当然、約12月から3月まで拘束されますので、あと早朝の作業ということで、そういうこともありますので賃金面も含めた協議をしております。

あとは若い方ですね、やっぱり何年か重機、大型車に乗って、こういう魅力のある動画とか、そういうような動画の作成とか、あと実際に、除雪機を一応、そういうふうに展示会、展覧会みたいなものを作って、何とか人材確保に努めたいと。そういうような考え方で請負業者とも検討しております。

○立花学建設港湾部長 今説明した内容に若干補足させていただきますと、今回、担い手がどのような状況に今、なられているかということで年齢構成であるとか、実際に除雪に携わった年数等を確認しています。今、その委託業者側のほうといろいろ協議している中では20年以上働いていただいた方に功労者表彰をして、何とか今働いている方、1年でも長く働いていただくためにそのような形の功労者表彰的なものを催せないかということの一つ検討しています。やはりその中ではですね、最高の年齢では、73歳、48年間という形でずっと従事されている方もいらっしゃいます。こういった方からですね、技術の継承をスムーズにしていくことっていうことのほかに、やはり73歳ですので、何年続けていただけるかというのは、お願いベースに今後なっていくと思うんですけれども、それでも今の担い手を確保する上では、1年でも長く働いていただきたいという思いの中で、そのようなことを一つ考えています。

また、若い方に興味を持っていただくということで、国のほうであるとか、舗装業者等については、機械を小学校だとか、幼稚園の方に見ていただくという試みをしているということで聞いておりますので、除雪機械にも触れ合う機会をですね、小さいお子さんにそのような体験をしていただくようなことができないかということも検討しています。触れ合うだけではなくて除雪機械を並べて、例えば絵を描いていただくとか、まずは興味を持っていただくのがいいのかなということで思っているんですけれども、ただ、まだまだ働き手になるまでには時間がかかりますので、実際には20代、30代の方はどうやって冬の除雪を担っていただくかというのは、こ

れからも委託業者と相談しながら、どのような方法がいいかというのは今後、進めていく上で協議をしていきたいなと思っております。

○永本浩子委員 ぜひいろいろと、本当にその小さい子に大型の車両とかってやっぱり皆、私たちも見学に行ったときに心がわくわくする部分もありますので、ぜひそういう試乗体験みたいなものもやっていていただきたいと思いますし、表彰もとてもいいことだと私は思います。

そして、こういうベテランの方に指導料を払ってでも若手の人にポイントだとか、こういったところには、こういうふうにやると綺麗にできるんだとかみたいな、何かそういう機会も設けていただいて、長くやってきた方が誇りを持って、若い人にも教えていただいて、若い人もそういった話を聞きながら、聞いた上でまた自分がやって体得していくみたいな、そういった流れをちょっと、ぜひ考えていただければと思います。

除雪なのでなかなか難しいかと思うんですけれども、こういう現場に行っているところにベテランの方が全部に行くことはできないので、中央の本社に現場の一番ベテランの方がいていただいて、A Iで各現場の様子を見ながら、指示出しをしたりとかっていうのをこれ除雪じゃなくて電気工事のほうの話だったんですけれども、A Iを活用したものというのも今やっているようなので、それが除雪現場でできるかどうかちょっとわからないんですけれども、何かそういったいろいろと研究もしながら、ベテランが全部の現場に行くのは難しいと思うんですけれども、何かそういった本当にせつかくの網走の除雪、とても技術力が高いということで評価を頂いている部分がありますので、ぜひ検証していけるようにやっていただければと思います。

私のほうから以上です。

○小田部照委員長 ほかの委員いかがでしょうか。

○平賀貴幸委員 何点か伺わせていただきたいと思います。

まず、その人員の体制の確保のことでいろいろ質問が出ていますけれども、ちょっとそこで私も伺いたと思います。これは、民間委託するという形でやってきているんですけれども、やっぱり民間委託しても、人手不足の問題だとか、重機の確保の問題ってやっぱり解決されないわけです。委託すれば何でも全てうまくいくという形じゃないっていうのが逆に増えてきたというふうに思っているの

すけれども、それを踏まえて先ほど栗田委員からあったように、機材は何かもう少し市で確保しなきゃいけない。それも考えとして市はやっぱり持たなきゃいけないと思うんですけれども、それ以外にも人材自体も一部ですね、通年雇用が民間で難しいんだったら、市のほうで雇用をしながらですね、冬季のオペレーターとして確保していくみたいなことも、考えなきゃいけないんじゃないかなと思うんですけれども、委託したからそれで何が何でも突っ走んきゃいけないというものじゃないような気がするんですけれども、その辺はどういうふうにお考えなんでしょうか。

○立花学建設港湾部長 今、委員からお話しあるようにですね、この除雪体制、夏場も含めて委託業務というのは、5年目、6年目……5年目になります。

当初、動き出してからいろいろな課題だとか見えてきた点、それから担い手が、当市が担っていた、最初お願いをしていたときから比べると少なくなっているという現状は認識をしております。技術の継承についても、なかなか今までベテランだった方がうまく引継ぎができていない路線もあるということもお聞きしております。

私たちとしても、委託をしたという責任の中でその委託業者を育てていかなければならないということをもまず思っておりますので、現段階においてはですね、委託業者に担い手をどうやって確保するかということについて、今後も協議をさせていただきながら進めて行くっていうのを大前提に考えております。

もともと市が担っていた人材に戻すかどうかということについては、慎重に考えていかなければならない点だなと思っておりますので、まずは、委託業者側のほうとどのような形で担い手を確保することができるか、冬場の臨時職員を確保することについて、なかなか今農業者の方、漁業者の方、塗装されている方が臨時職員としてお願いをしている方ということでお聞きしているんですけれども、若干、農業者の方が離れていっているという実情も聞いておりますので、そのような臨時職員の今の担い手の動向を今後どのような形で確保するかということについても、持続可能な除雪をするために私たちと委託業者とで協議を進めてですね、どのような形で進めるかということをもまずはやらせていただきたいというふうに思っております。

○平賀貴幸委員 おっしゃるとおりなんだと基本的には思っております。事業者さんがいない時代は、それは直営でやるしかないですから市でやるしかないんですよ。育ってきて、そこに任せられるようになったら任せられるっていうのは一つの考え方ですけれども、逆にそれが育ってきたときにどうするかってことも考えなきゃいけない、まずはそこまで至っていないということなんでしょうから、今のような考え方でいいと思います。そこでですね、こんなことも考えられるかな思うんですけれども、確かにこの重機や除雪に興味を持っていらっしゃる方はいるんだなと思いますので、それこそロータリーで除雪する様子などを動画で撮影してSNSに投稿したりするとかかなりの人数の反応があるんですよ。

やっぱり、こういうものに魅力を持ったり驚き持ったりする方は、一定数いらっしゃるんだなということは感じてますし、それを網走の地域の子供たちを含めて、動画などを見せていくというのが多分大事なことだし、重機に触れてもらうのも大事なことなですよ。それと同時にですね、この分野にも地域おこし協力隊を活用するなんてことも一つ考え方が持てないのかなというふうに逆に思うんですけれども、どうですかね。

○立花学建設港湾部長 地域おこし協力隊については、商工労働課の、ほかの部署で行っている事業だとは思いますが、なかなか期間限定で地域を担っていただくということについて、私も実は考えたことがあるんですけれども、なかなかすぐに機械を、除雪をする技術を会得できるかというのは非常に時間をかけて、技術を習得していかなければ難しいのかなって一点あります。

それをきっかけに、網走の市民になっていただいでずっと働いていただくことが理想だということをも私思っておりますので、網走、冬の雪国のそういう除雪に興味を持っていただくようなですね、逆に広く冬で除雪してみたいというような方の掘り起こしということについても、地域おこし協力隊とは別にそのようなアナウンスもしていくということについても検討をしてみたらどうかということまでは私も思っておりました。

ただ、具体的に地域おこし協力隊でそういった試みをするかどうかまではまだ、私たちの中でも整理ができていない状況ですので、今後、今、委員からお話しあったということも含めてですね、検討していきたいというふうに思っております。

○平賀貴幸委員 除雪のオペレーターという形で限定してしまうと、おっしゃるとおり、なかなかそんな容易ではないですけれども、案外、全国の地域おこし協力隊の事例を見ると、建設分野で地域おこし協力隊ってあるんですよね、結構。

除雪に実際、携わっていた経験のある方というのはなかなかすぐには難しいんでしょうけれども、重機の操作をもともと仕事でやっていた方でしたらまだ少しはね、除雪とはちょっと違うんですけれども、可能性としてはあるのかなと思います。建築分野全体の人手不足もありますから、そこに地域おこし協力隊をうまく噛み合わせて、業務委託をその方個人にかけるといった形で上乗せで収入を得るような形にすればですね、地域おこし協力隊のもともと収入が少ないという問題も、一つクリアできる部分もあったりするのかなと思いますから、ぜひですね、そこは積極的に考えていただいて、一つ人材確保の手段として考えていただきたいというふうに思います。決して後ろ向きではないというふうに理解していますので、一つ検討していただければと思います。

それから、14ページに、15ページかな、チラシが載っているんですけれども、これはもう既に配布済みだったんでしたっけ。それをちょっと確認させていただきたいと思います。

○澁谷一志都市管理課長 この除雪についての五つのお願いというものはもう配布しております。

○平賀貴幸委員 配ってしまったものですから、今さら言うのもあれなんですけれども、やはり、大きく変わった点については、ここは昨年と変わりましたっていうことの周知が必要だったのかなというふうに思います。LINEについては新規の情報ですから、変わったというよりは新たに載せたのでいいんでしょうけれども、やっぱり除雪の朝の時間帯の考えが変わった部分というのは、これ、最初のうち市民は気づかないですけれども、何か変だな、何か変だなと思って気づいて、後から結局苦情となるんですよ、恐らく。ですから、ここは何らかの形で再周知、多分必要だと思うんですけれどもどうでしょうか。

○澁谷一志都市管理課長 今、委員指摘のありましたとおり、変更した部分についてはですね、変更した部分っていうような形でわかりやすく丁寧にですね、これから記載をしていきたいと考えております。

○平賀貴幸委員 本当でしたら、赤字とか大きく強調する形で今回のチラシにそうするのが一番適切だったと思うんですけれども、今後、いろいろな形で周知する機会があるでしょうから、そのときに実はこう変わっていますっていうところはうまく周知していけないと市の苦労が増えるばかりなので、そこはぜひですね、もうちょっと工夫はしていただきたいというふうに思います。

それから、除雪計画の中で先ほどロータリー車1台減になって影響がないということでしたけれども、心配なのが排雪のときの影響がないのかなというところなんですけれども、たしか4班体制だったのが3班体制しか去年は組めないというふうになったんでしたっけ。それに対して、今回のロータリー1台減って影響がないんですかね。

○澁谷一志都市管理課長 昨シーズンの排雪体制、従前は3班体制で行っていたんですが、2班になりまして対応しております。ロータリーとか1台、今回、減っておりますが、そこら辺は以前から稼働がほとんどなかったものですから、そちらのほうは影響がないと考えております。

○平賀貴幸委員 それならば、まだ大丈夫だなと思いますが、一定の期間の中でロータリーを含めて排雪していただくことになるんですけれども、去年はなかなかその一週間続けてという体制を組むのも、難儀したというふうに聞いているんですけれども、そこは、事前の契約だとか打合せでは、今年度もし、必要な事態が発生したときには、土日祝日も含めてずっとやっていけるような体制になるということなんでしょうか。

○澁谷一志都市管理課長 実際に排雪するっていうふうになりますと、当然、一定期間、作業することになります。オペレーターとか作業員のですね、安全とかも考えますので、それは昨シーズンと同じようにですね、日曜日は休日を設けるというような形で今シーズンについてもそういう形で、もし排雪がありましたら行っていきたいとは考えております。

○平賀貴幸委員 昨年並みの形は、何とかできるというふうに思っていていいということですが、なかなかそうは言ってもそういった苦情が多かった状況ですので、何か排雪を含めて、あるいはその路面整正を含めてなのかもしれないですけれども、改善策というのは、何か市として考えてらっしゃるんですかね。というのは、いろいろとお話を伺っていく

と、路面整正が原因なのか、排雪の方法が原因なのか、判然としないんですけれども、小型の重機で排雪をしに行くときに普通に走っていても今まではなかったんだけれども、車が横転しそうなぐらいの影響を受けることが去年多くて、こんなことは今までなかったというお話を案外多く伺うんですよ。それで、何らかの改善があるのかどうかなんですけれども、いかがでしょうか。

○澁谷一志都市管理課長 昨シーズン、久しぶりの大雪ということで、かなり問合せもかなり多く来ておりまして、そこら辺も踏まえて今年もですね、その道路状況も把握しながら、できるだけ交差点とか本当に走りづらいような道路につきましてはできる限り対応していきたいとは考えておりますが、人材もですね、限られておりますので、そこら辺は御理解を願いたいとは考えております。

○平賀貴幸委員 そういったものに少しでも対応できるようにこのLINEを活用したサービスの導入をされるということなんだというふうに理解をしていますし、これは公式LINEを道路の関係で活用するという話があったときにぜひ除雪もってことで求めたところなので、対応していただけてそこはよかったなと思うんですけれども、これについても1か月に一度、対応事例を発表していくというお話がありました。現時点でやってみないとわからないので、なかなかその対応基準とかは持てないのかなと思いますけれども、そうはいつても何らかの物差しをできるだけ早く持っていかなきゃいけないのかなと思うんですけれども、その辺についてはどんなふうに考えていらっしゃるのでしょうか。

○澁谷一志都市管理課長 そこら辺はですね、どのくらい降るのかっていうのは、ちょっと不透明な部分もございます。あとは先にですね、いち早くこういうのを導入しているところもございますので、そこら辺も参考にしながら、あと、その自治体の実際の担当の方のお話も聞きながらですね、対応していきたいと考えております。

○平賀貴幸委員 全般的に大体理解させていただきました。

去年の苦情で一番多かったのは、私の中ですね、強い意見で一番多かったのは、道路がザクザクで走れない状態になってしまって、とてもすれ違えないっていうのが一番多かったのかなというふうに思います。で、もう一つは、わだちの問題で車がやはり傷んでしまったり、立ち往生したりしてしまっ

たという、この2点だと思うんですね。

路面整正をうまく行えば防げるのかもしれないですけれども、ただ体制の問題があってそうもいかないと。このLINEサービスについては、そこについては重点的に対応できるようにしていくんだっていうふうに考えてよろしいのでしょうか。

○澁谷一志都市管理課長 LINEの通報、どのぐらいの路線でかなりの通報があるのかはわかりませんが、先ほども説明いたしましたが、人材にちょっと限りがございますので、できるだけ市民の方の交通の支障にならないような形で対応はしていきたいと考えております。

○立花学建設港湾部長 すいません。

今、答弁に補足させていただきますと、昨年度の問合せの件数っていうのが600件を超えるかなり大きな件数を頂いています。

問合せを頂いた流れといたしましては、実際に電話を頂いて住所を聞いて、その場所に行って状況を確認してから行動するという状況が昨年でした。

今回、LINEを活用することになりますと、映像と位置情報が瞬時にこちらのほうに来ますので、昨年のようなザクザクであるとか、わだちであるとか、そのようなシチュエーションで車が立ち往生するというような事象が起きた場合に、LINEからの情報を活用することによってですね、昨年の対応に時間がかかっていた内容が改善されるということで思っておりますので、今回のLINEの活用でそのザクザク、わだちについての対応については改善されていくのではないかというふうに期待しています。

ただ、昨年の雪の降りの状況が例年に比べて非常に短期間にどっと降ったという雪から起きているということで私は聞いておりまして、実際にどのような対応の雪が降るかというのが今シーズン、これからということではわからないものですから、昨年のようなことがあれば改善ができるかなと思っておりますけれども、また別な形で例えば、地吹雪で車が全然通れないであるとか、そのようなピンポイントに除雪として滞っている場所だとかということの確認についても、このLINEを活用することで瞬時に除雪の対応というのは、スムーズに行えるのではないかなということで期待しております。

○平賀貴幸委員 期待どおりの活用がうまくできるかどうかは願うしかないんですけれども、状況としてある程度まとまった時点で年度途中、シーズン途

中って言ったほうが正しいかな、シーズン途中で、こういう形で活用されていますということを市民にできれば、フィードバックって言うか、お知らせしていくことでさらにうまく回っていくっていう可能性もありますので、その辺、ぜひ臨機応変な形で対応していただきたいと思います。

以上です。

○小田部照委員長 ほかの委員いかがですか。

○永本浩子委員 すいません。

ちょっと、先ほど、言い忘れたので1点だけ。昨年のときも開業医の方から要するに大きな道路に面しているところはいいんですけども、ちょっと住宅街の中にできている医院、クリニックに関して、やっぱり患者さんが入って来れないっていうところで何回かお話を頂いたケースがあったんですけども、また、今回の開業医が新しく増えていただいてありがたい限りですけども、今回はそういったところに関しては、命に関わる場合があるので優先的にきちんと除雪、排雪が入るというような、そういう計画はされるのでしょうか。

○澁谷一志都市管理課長 病院とか緊急車両が通るような道路につきましては、道路状況を把握しながらですね、市民が利用しやすいような形で対応していきたいと考えております。

○永本浩子委員 ありがとうございます。

ぜひ、よろしく願いいたします。

○小田部照委員長 ほかに。

○古田純也委員 市民への周知、啓発なんですけれども、ホームページで除排雪についてわかりやすく解説するという。このわかりやすくて具体的にどのような内容なのでしょうか。

○澁谷一志都市管理課長 都市管理課のホームページにも除雪に関するお願い、あと動画も、一応このような形で行っていますっていうような動画につきまして、ちょっと以前で年数もたっているんですが、そういうような形でホームページのほうには周知しております。

○古田純也委員 私のイメージの中では、いつ来るとか、どこでやっているとかっていうこういうスケジュールが載るのかなというイメージだったんですけども、そういうのは全く載らないんですか。

○澁谷一志都市管理課長 そこら辺は、GPSっていうかそういうふうなものをつけて周知している自治体もございますが、当市では、排雪をいつからするとか、あと詳しい日程とかっていうのは、現在の

ところは考えてございません。

○古田純也委員 先ほど、部長からもお話しありましたけれども、クレームの600件のうち、要はいつ来るのっていう件数もかなりあったと思うのですが、それに向けた改善策っていうのは何か御検討されているのでしょうか。

○澁谷一志都市管理課長 先ほど部長のほうからも、問合せの件数っていうのはかなり多く昨シーズンはございました。

特に、昨シーズンも当然、雪も多かったものから、いつ排雪が来るのという問合せっていうのは数多くございました。排雪はですね、順番どおり地区ごと効率良く排雪作業を行いまして、次、隣が来たからうちが来るのかなというような方の問合せも多々あるんですが、排雪の効率がいい経路っていうような形で行うのと、降雪ですか、雪の降雪の状況によって、また排雪の日程が変わったりとかっていうのはございますので、なかなか細かく排雪、この地区が何日っていうのはなかなか市民の方には周知できないような状況でございます。

○古田純也委員 わかりました。

○小田部照委員長 ほかの委員いかがですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

よろしいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

それでは、この件につきましては、この程度でよろしかったでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

その他、委員の皆様から何かございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

それでは、これをもちまして総務経済委員会を終了いたします。

お疲れさまでした。

午前11時10分閉会